

# 他者に依存せず、できることは自分でする子

～自分からすすんで、からだを動かす子～

## 1. 対象児 (Y・F. 高3女) のプロフィール

(1) 障害名 てんかん

(2) 生育歴

- ・昭和47年8月2日生 18歳2か月 高等部3年生
- ・てんかん 知恵おくれ 1歳7か月のとき小児てんかんと診断  
6歳のとき鳥取県立中央病院で、てんかん知恵おくれと診断
- ・6歳8か月まで家庭での保育の後、公立小学校に入学、1年の2学期にH養護学校に編入  
高等部より本校に在籍
- ・家族は両親、兄の4人、教育熱心、特に母親が熱心で常に行動を共にしている。

(3) 本児の実態

- ① 運動能力テスト (「資料編」参照)
- ② 体力テスト (「資料編」参照)
- ③ 諸検査 I Q45 (田研田中ビネー) MA 6歳4か月

④ 性格行動上の特徴

にこにこ笑っていることが多く、おっとりとしている。自分から話すことはほとんどなく「大きな声で話しましょう」と指示をすると一言は出すが後の言葉が続かないために側に居る人が話し、その後から同じことを言うという場面が学校では多い。

身辺自立はできているが、「服を着替えましょう」「トイレに行きましょう」と1つ1つ指示をしないと行動しない傾向がある。農園の草取りの場面、じっと立っている本生徒に「この草を取りましょう」と指示を出すと、指さされた草をにぎったままなので草の抜き方の説明をする。それで1本の草を抜くが次の草を取ろうとしないので、「次はこの草」「次はこの草」と、付ききりで指示を出さないと行動がとれない。

一度見通しが持てると、驚くほどの根気で1つのことに集中するが、そういう場合は単純作業が多い。給食当番のように自分で次々に仕事をみつけて行動する場合、指示されたことがすむとじっと立っていることが多く、「それ位のことがわからんだか」と友達に言われ、大声で泣き、給食も食べないで抵抗するといった意地を見せる一面もある。

やっってもらうまで待っているという様子も伺えるが、手招きをしたり、すり寄って肩によりかかって頭をなでたり、耳にさわったりする幼児的行動が抜け切れないところも見られる。

登校途中のバスの中でぐっすり寝込んでいて友達に起こされることがよくある。午前中前半焦点が定まらず、何度も大声を出して指示を出すことがある。てんかんの発作を押えるために服用している薬の副作用のためと推察される。

2学期に入り、服用する薬が変わり、表情に明るさが見られるようになって、はっきりした



朝の会で発表する本生徒

口調ではなそうとする前向きの姿勢が見られ出したが一定の大きさの声で話すことができず、始めの一言は明確であるが、次の言葉は聞きとれない状態がある。

足のうら全体を地につけ、腰を落して歩行するので、動作が遅く、緩慢さが目につくが本人はいっこうに気にせず、ひとりでゆっくりと行動している。

家庭における本生徒の様子は学校とは違って、大声で話し、非常に活発で仕事もよくすると母親は語ってくれるがその原因がどこにあるのかよくわからない。

## 2. 各場面での実践例

### (1) 保健体育〈Aグループ〉

#### ①ねらい

- ・自分からすすんでからだを動かすことを楽しむ。

#### ②方針と手だて

1年生がほとんどの本グループに3年生が1人ということもあって、注意されるまで後ろの方に立っていることが多い。声かけをしてくれる友達もいないが、上級生という意識を持たせ先に立って行動するように指導する。

#### ③実践例

介助が必要な生徒の多い中で、1学期は1人で立っている姿が多く見られたが、2学期に入り、介助されながら運動する生徒達に交じってからだを動かすことが多くなってきた。薬の服用で午前中の動作には緩慢さが目立つが、本時は、月・金の午後にあるので、明るい表情で動くことが多い。特に教師が相手をするときは嬉しそうに頼りかかるようにして運動をする。

体重を支えるだけの脚力がなく、足のうら全体を地につけてペタペタ歩行するのでジャンプするとか走ることはあまり好まないが、ゲームに夢中になったときや音楽に合わせてからだを動かすといった場面では、わずかな運動量であるが、それらしい格好をしている。

すわっていても、歩いていても母親によりかかって生活していた本生徒には一人でからだを動かすことは精神的にも非常に困難なことであるが、意識させないで自然に動くことが大切である。

## (2) 養護・訓練〈bグループ〉

### ①ねらい

- ・いろいろな動きを経験し、調整力や筋力を高める。
- ・見通しを持ってトレーニングにすすんで取り組むようになる。

### ②方針と手だて

- ・少しでも見通しを持って、指示がなくても取り組めるように、活動の内容をパターン化する。
  - ・腹筋→築山の登り下り（3回）→平均台→鉄棒のぶらさがり→逆上がりの練習
- ・直接指示を出さず、「次は何でしたか」と問いかけたり、「他の人は何をしていますか」と周囲を見て何をすればよいのか判断させるようにする。
- ・築山の登り下りや場所移動はランニングで行わせ、「腕を大きく振って」や「1、2、1、2」の声かけにより、ランニングフォームが大きくなり、ベタ足で走るのが少しでも軽やかになるよう促す。
- ・最初のうちは直接的な補助もするが、徐々に補助の手を離し、一人で運動する経験を増やしていく。

### ③変容例

運動内容	4月の実態	10月の実態
築山の登り下り	指示がないと立ちつくしていたり、ベタ足歩きでゆっくりと歩いて登り下りしていた。	他の生徒と一緒にすぐとりかり、腕を大きく振って元気よく走って上り下りできるようになった。
平均台	補助がないと平均台に上がろうとせず、渡る時にも補助の手を離そうとすると大きな声で「こわい」と泣き叫んだ。	時間はかかるが、自分の力だけで平均台に上がろうとするようになり、横歩きでならば1人で渡れるようになった。
鉄棒のぶらさがり	高い鉄棒を握ってはいても補助の階段から足を離さず、腰を抱えられてぶらさがるとこわがって泣き叫んだ。	腰を抱きかかえる補助をすれば、泣き叫んだりせず、10数えるまでならば、ぶらさがっていることができた。

## (3) 職業〈作業グループ〉

### ①ねらい

- ・指示を的確に把握し、見通しを持って製作活動をする。
- ・筋力をつけ、行動が敏速にできるようにする。

### ②方針と手だて

習得されている能力が使えるように、本生徒が見通しを持つように、わかりやすく何度も指示をくり返し、同じ製品を根気よく何個も作れるように配慮する。

自分で材料をそろえる、次の工程にとりかかることを非常に不得意とするので、そういった面が自主的にできるように留意して指導にあたる。

### ③実践例



粘土を手にした本生徒の表情はとても明るい。よく指示が通り、それらしい形を作ることはできるが、「水がもらえないようにすき間を〇〇しましょう」といった知的理解を要する指示になると、頓着せず、自分のこだわりでどんどん形をつくり上げてしまった。

写真手前右にある作品は「背の高い花びんを作ろう」という課題に挑戦するが、粘土を積み重ねる内にだんだん間口が広がり、くずれてしまった作品である。活動する本生徒の手はいきいきと動くが粘土がなくなると、じっとしたままで、粘土をもらいに行くことができない。「粘土をもらってきなさい」と言うと、粘土がある所まで行って立ちつくしている状態が続く。「粘土を下さい。と言いなさい」と指示されてもじっとして言葉がなかなか出ない。結局、ボソボソと話し、後は指でさすことで粘土を得て製作を続け作品を完成

させて行く。本生徒らしい大きな伸び伸びとした型をいくつも仕上げていた。

#### (4) 生活一般〈家庭科・国語・数学等〉

##### ①ねらい

・できることを見つけて根気よく最後まで学習したり作業をしたりする。

##### ②方針と手だて

課題解決をする2人組を作る。本生徒には、細かくわかりやすい指示を出すことのできるY・Eをパートナーにする。本生徒が活動しないと解決できない場を設定し、自分が努力したから出来たという存在意識を育てるようにする。

##### ③実践例

スパゲティーを作ろうの場面で、農園から取ってきた豆を全部、さやから出していた。家からやっていることは、指示なしでもできる。

### 3. 考察及び今後の課題

「必要感がない」これが本生徒の生活のすべてであったように思ひ。じっと待っていればやってもえ、意にそわないと大声を出したり泣いたりすれば思い通りになる環境から、「自分でする」という気持ちを本生徒に早く持たせる指導が大切だと思われる。てんかんの発作を押えるため、相当強い薬を服用しており、疲れが発作の引き金になっている節もあるので、様子に詳細な注意を払いながら、徐々に自立する方向にもっていけたらと考える。

(文責 田中 美美)